

「家がいいね」 第229号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023. 6. 5



梅雨入り宣言されました。194号（3年前）に掲載したお宅のガクアジサイは、今年の盛りは先のようなです。6月2日は、線状降水帯の篠突く雨で冠水も多く見られました。「注意下さいね」

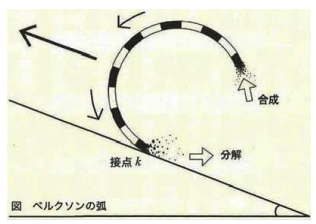
音楽と生命は、よく似ているものなのだ



坂本龍一さんは、3月28日に咽頭がんのため、71歳で逝去されました。多分野での活躍があり、最近TVでピアノ演奏も見ました。体調が厳しい中、作曲を提供されたこともカンヌ映画祭受賞作品のニュースで知ったところです。



3月29日付け発行の共著本があります。「音楽と生命」集英社共著は生物学者の福岡伸一さん。アメリカが生活と対談の場でした。坂本さんは五線譜で音楽が記録されるようになったが、音楽とは譜面に基つき、演奏家と聴衆とが共に創る、ただ一回のものと言つ。福岡さんも遺伝子で受け継がれる生命が動的平衡で保たれることを解き明かしている。日々の命は遺伝子で作られる蛋白を分解して合成することの繰り返しで、図の輪が坂を登っていく動きであると。お二人は音楽や生命の長い営みの中で一回性の不思議を語ります。



一回性が次世代に継承する過程も循環と語ります。つまり**個体の死は敗退でなく、ある種の贈与**と。それまで自分の生命体が占有してきた空間・時間・リソースという部分を、誰かの若い者に手渡すことは、最大の利他的行為とも言えます。自然の摂理で迎えられた死は、**悲しみより寿(ことほぐ)ことであり日本語の寿命に通じます**。有限であればこそ生きた証や、芸術の命は輝くとも言えます。

始める時は、終わる時のことも考えねば

私に近いことでしたら、薬を初めて処方する時は、止める時期のイメージも説明しておきます。「死ぬまで飲みなさい」とは言いません。実際に食べられない、飲めなくなる時が前に来ますから。話が替わりますが、始めたものの止め時を考えないままに事態が進行するのは困りますね。制度の多くは、改革や改修の時期を逸してしまいます。国家の戦争は始まりが曖昧で、意図して終えることもできないものだと思います。国民に消耗を押し付けて、長引かせることすら戦略だと勘違いしているのは、現下の戦争でも同じだと思います。この国も深く経験したはずですが、世代交代で勇ましい言動が増え、舵取りも危うくなりました。困ったことも言えない圧力は今も増えています。小さな声は、その場から言っしかないと思います。

腹の立つことは溜めないで、言おうね

伊勢市での生活保護の受診者の話を聞きます。市役所支援課職員が、住居費や通院経費などに制限を加えて、希望しないのに転居まで求めるのはおかしい対処だと、人権の意識の欠如を感じます。就労困難な状況を抱える人に、具体的支援を準備するのではなく、「働かないのは罪だ」の姿勢で、臨むのも間違っています。最近、医師意見書に就労可否を求める強圧的な記載まで求めるようになり、私は立腹を隠せません。

夏季休業のお知らせ

もう今年も半年が過ぎようとしていくと気付きました。2カ月先の予約に8月が射程に入りました。**8月11日(祝日)** 8月12日(土) 開院 **8月13日(日)** **14(月)** **15(火)** 休診 休診期間中も在宅の方には対応いたします。



自宅での人生を 最期まで支援します
〒516-0805 三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>

→バックナンバー閲覧可

